

国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センター  
優良品種・技術評価委員会品種評価基準  
－花粉症対策品種等－

（目的）

第1条 本基準は、国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センター優良品種・技術評価委員会設置要領（平成21年5月13日付け21森林林育第37号）第2条第1項の規定により、国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センター優良品種・技術評価委員会が、林木の優良な新品種の開発に係る評価を行うために定める評価基準である。なお、品種の種別ごとの評価基準のうち、花粉症対策品種及び無花粉遺伝子を有するスギ品種について定めるものである。

（花粉症対策品種の種類）

第2条 本基準によって評価基準を定める花粉症対策品種（スギ花粉発生源対策推進方針（平成13年6月19日付け13林整保第31号）別紙2の1関係）を下の各号に定めるものとする。

- 一 無花粉スギ品種 花粉を全く生産しない特性及び林業用種苗として適した特性を有するもの。
- 二 少花粉スギ品種 平年では雄花が全く着かないか、又は極めて僅かしか着かず、花粉飛散量の多い年でもほとんど花粉を生産しない特性（花粉生産量が一般的なスギに比べ約1%以下）及び林業用種苗として適した特性を有するもの。
- 三 低花粉スギ品種 雄花の着花性が相当程度低い特性及び林業用種苗として適した特性を有するもの。
- 四 少花粉ヒノキ品種 平年では雄花が全く着かないか、又は極めて僅かしか着かず、花粉飛散量の多い年でもほとんど花粉を生産しない特性及び林業用種苗として適した特性を有するもの。

（無花粉遺伝子を有するスギ品種の種類）

第3条 本基準によって評価基準を定める無花粉遺伝子を有するスギ品種（スギ花粉発生源対策推進方針（平成13年6月19日付け13林整保第31号）別紙2の2の（1）、（2）及び（注1）関係）を以下のとおり定めるものとする。

無花粉遺伝子を有するスギ品種 花粉は生産するが、劣性の無花粉遺伝子をヘテロで保有し、林業用種苗として適した特性を有するもの。

（評価基準）

第4条 花粉症対策品種及び無花粉遺伝子を有するスギ品種の評価にあたっての基準を下の各号に定めるものとする。

- 一 国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センター品種

- 開発実施要領-花粉症対策品種-（平成21年6月25日付け森林林育第83号）に定められた方法又はそれと同等の方法で品種開発が行われていること。
- 二 品種開発までの経緯、品種開発における調査データが明示されていること。
- 三 無花粉スギ品種の花粉を全く生産しない特性については、原則2年以上のクロン検定により、花粉を全く生産しない特性を有すると評価できるもの。ただし、富山不稔1号、はるよこい、爽春等、遺伝様式及び評価方法が判明している無花粉スギ品種の系統にかかる調査については、複数ラメートの複数雄花を対象に、1開花期の成熟期の雄花を顕微鏡等で観察することにより調査とすることができる。少花粉スギ品種のほとんど花粉を生産しない特性については、原則として総合評価値で1.1以下の評点となったもの及びそれと同程度のもの。低花粉スギ品種の雄花の着花性が相当程度低い特性については、原則として総合評価値で1.3以下の評点となったもの及びそれと同程度のもの。少花粉ヒノキ品種のほとんど花粉を生産しない特性については、自然着花で平年では雄花を着けないか、又は極めて僅かであり、かつ原則としてジベレリン処理後の総合評価値で2.2以下の評点となったもの及びそれと同程度のもの。
- 四 無花粉遺伝子を有するスギ品種の劣性の無花粉遺伝子をヘテロで保有する特性については、無花粉遺伝子を有するスギの系統との人工交配により得られた個体の集団から、一定の割合で無花粉のスギが得られることが検定によって確認されたもの。
- 五 複数箇所における継続した検定により、林業用種苗として成長や通直性等に関して良好な特性を有すると評価できるもの。

（平成21年7月1日 制定）  
（平成27年4月1日 優良品種・技術評価委員会一部改正）  
（平成29年3月24日 優良品種・技術評価委員会一部改正）  
（平成29年4月1日 優良品種・技術評価委員会一部改正）